

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：34507

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K13190

研究課題名(和文) From Hiroshima to Fukushima: Japanese Performing Arts after 3.11

研究課題名(英文) From Hiroshima to Fukushima: Japanese Performing Arts after 3.11

研究代表者

エグリントン アンドリュー (Eglinton, Andrew)

甲南女子大学・文学部・講師

研究者番号：30707948

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：3.11以降、地震と津波という目に見える天災と、放射能汚染という目に見えない人災が、舞台に表象された/されなかったのかを検証し、表象も修復も不可能なカタストロフとトラウマに向き合う芸術の社会的役割を主にアジアに生きる女性演劇人の視点から考察し、国際シンポジウム、芸術祭、演劇祭などで討議し、その成果を新聞記事や学術論文・書籍で日本語と英語で発表してきた。4年にわたる研究期間を統括するにあたり、雑誌論文14本、図書2本、英語論文発表4本、そして映像/演劇公演の翻訳や文化イベント企画、シンポジウム、キュレーション10本、合計30本を業績に挙げた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会動向を反映して変化し続ける舞台芸術を記録し、共有する手段として、英字新聞"The Japan Times"を筆頭に日英の二ヶ国語で執筆するとともに、翻訳者として、舞台芸術の創造に積極的に参画した。並行して、アジア女性舞台芸術会議、ダンス・ボックス、Kyoto Experiment芸術公社といった演劇実践者たちと連動し、社会と大学と劇場をつなぎながら、国際会議、芸術祭、演劇祭、演劇パフォーマンス、トークを企画・運営し、その営為を言説化・アーカイブ化することによって、アカデミアはもちろんのこと、そこに留まらないより幅広い層の読者・観客と研究課題を共有することが可能となった。

研究成果の概要(英文)：The project "Japanese Performing Arts after 3.11" looked at ways in which Asian women artists have represented relationships with contamination in post catastrophe contexts. The work led to 14 articles such as the Japan Times and, 2 articles for books; the presentation of 4 papers in English at international conferences. We also organized 10 arts projects in collaboration with the Asian Women Performing Arts Collective, Dance Box Kobe, Shitamachi Art Festival and Kyoto Experiment.

研究分野：舞台芸術

キーワード：トラウマ カタストロフィ 舞台芸術 表象 不可視 3.11 核 フクシマ

1.研究開始当初の背景

原爆を主題にした「原爆演劇」は、文学史、批評史のいずれにおいてもジャンルとして確立した「原爆文学」に比べると作品数が少ないものの、別役実の『象』(1962年初演)、つかこうへい『広島に原爆を落とす日』(1979年初演)といった代表作を筆頭に1960-70年代に興隆し、今日に至るまで時折上演され、大笹吉雄、扇田昭彦などの批評家によって演劇史に刻まれてきた。だが原爆を主題にした舞台は原爆演劇以上に少ない。チェルノブイリ原発事故が起きた1986年以降、反原発運動が盛り上がりつつも「時代の鏡」たる演劇が原発や核問題を映す機会は多くはなかった。核問題が日本の演劇界の一潮流として確認できるようになったのは、3.11後である。以来四年半の間に多種多様なメディアで核問題が描かれ、論じられてきたものの、日本の舞台芸術が第二次世界戦後最大のカタストロフとトラウマをいかに舞台化してきたかをクリティカルに論証する学術書は未だ数が少なく、開拓の余地が多いに残された研究領域である。

2.研究の目的

本研究は、3.11以降、地震と津波という目に見える天災と、放射能汚染という目に見えない人災が、舞台に表象された/されなかったのかを検証し、表象も修復も不可能なカタストロフとトラウマに向き合う芸術の社会的役割を批評する。東日本大震災の瓦礫の山は、広島・長崎の恐怖を蘇らせると共に、世界有数の地震国にして被爆国が世界有数の原発依存国になった理由を改めて問い直す契機となった。戦後生まれた「原爆演劇」に比べても、チェルノブイリ原発事故が起きた1986年以降も「原爆演劇」が興隆することはなかった歴史を参照しつつ、「時代の鏡」とされる演劇が時に世論に従い、抗いながら、不可視の核をいかに投影、歪曲、変容、昇華、隠蔽してきたのかを、主にアジアに生きる女性演劇人の視点から考察し、国際シンポジウム、芸術祭、演劇祭などで討議し、その成果を新聞記事や学術論文・書籍で日本語と英語で発表する。

3. 研究の方法

社会動向を反映して、変化し続ける舞台芸術を記録し、共有する手段として、英字新聞"The Japan Times"、演劇雑誌『シアターガイド』、劇場ウェブサイトといったアカデミアに留まらない幅広い読者に向け、日英の二ヶ国語で執筆するとともに、翻訳者として、舞台芸術の創造に積極的に参画した。並行して、アジア女性舞台芸術会議、ダンス・ボックス、Kyoto Experiment 芸術公社といった演劇実践者たちと連動し、社会と大学と劇場をつなぎながら、国際会議、芸術祭、演劇祭、演劇パフォーマンス、トークを企画・運営し、その営為を言説化・アーカイブ化した。

文字制限のために各年での研究報告書で書き切れなかった演劇実践のいくつかの具体例を以下より詳細に述べる。ドイツ在住の田中奈緒子の三部作、日本のダンスカンパニー・ニブローとアジアのアーティストが組んだ『源氏物語』の翻案は、不可視の核を直喩ではなく、メタ

ファーとして間接的に織り込みんでいる。アジア圏の戦争・闘争を含むカタストロフとトラウマという社会的、個人的な闇を、女性の視点から扱ったこのような作品について、The Japan Times に寄稿するだけでなく、学会発表を通して考察・批評し、記録化した。

企画運営を行なった国際公開講座の筆頭に挙げた「芸術と社会の接点：「核」を巡る二つの映画を中心に」では、ベトナムの首都ハノイを拠点に活動する映像作家グエン・チン・ティー氏を神戸市外国語大学に招聘し、3.11直後の東京で撮られた「Jo Ha Kyu」（2012年）、少数民族チャム族が住むNinh Thuanにベトナム政府が同国発の原子力発電所を建設しようとする計画を事実と虚構を織り交ぜながら描写した「Letters from Panduranga」（2015年）という核の脅威を日本とベトナムの文脈から政治的かつ誌的に捉えた二作品を彼女の講義と共に上演した。その後、アジア女性舞台芸術会議の一環として、1995年に震災による多大な打撃を受けた神戸市長田区をアジア五カ国から招聘した演劇人と視察し、地元のdance boxと早稲田スコットホールにて会議を持った。またアジア四カ国で行なった現地調査の結果を、東京の森下会議での報告会、報告書などで発表した。

芸術と社会の接点を女性の視点から探る研究は、2017年国際演劇祭KYOTO EXPERIMENTにおけるシンポジウム「ナショナルアイデンティティと文化イベント」の企画にも繋がった。田中奈緒子、キミ・マエダ、ロベルタ・リマという女性アーティスト三人を招聘し、「"政治"や"歴史"の前で個人の言葉をいかに響かせていけるのか」を討議した。同時期にキミ・マエダによるソロ・パフォーマンスと講演会「Bend パフォーマンスとポスト・トーク：移民・戦争・記憶を巡って」を所属校である神戸市外国語大学にて企画し、第二次世界大戦中に強制収容所に抑留されたアジア美術史家であるマエダの父と、彼が研究対象とした彫刻家のイサム・ノグチの関係から日系人収容所、日本とアメリカの関係性について、ポストトークで話し合いの場を持った。また、多民族が共生する港町新長田で行われた下町芸術祭におけるダンスボックスとアジア女性舞台芸術会議の国際共同作業として、難民・移民として来日したベトナム人の悲喜交々を矢内原美邦が抽出し、国民的女優レ・カインと亜女会の安藤朋子が演じる二人の女の異言語対話劇『悲劇のヒロイン』として舞台化した。並行して、ハノイ・ドクラブを率いる映像作家グエン・チン・ティーの『93 years, 1383 days』を研究代表者がキュレーションし、ベトナムの苦難の世紀を生き抜いてきた作家の祖母の遺骨を夜中に親戚一同が掘り起こし、洗い清めてから家族代々の墓に収めるバクモウと呼ばれる洗骨葬を、震災を生き延びた古民家の暗がりに浮かび上がらせた。さらに、明治に生まれ、大正、昭和と日本の激動期に女性の地位向上運動に尽力した劇作家・小説家の長谷川時雨とその同時代人に関する勉強会から派生した女性のパイオニア・アーティストを（再）発見する「クロニクル・プロジェクト」が、2018年2月のTPAMから本格的に始動した。「女とは誰か？ アジアとは何か？」を繰り返し自問しながら、「最初の女性舞台芸術家は、あなたにとって誰ですか？ 彼女は、いつ、どこで生まれ、何をし、なぜ重要なのですか？」という問いを参加者に投げかけ、その答えから地図年表を作成していく。男性中心の歴史から忘却され、隠蔽され、曲解されがちな女性の開拓者を（再）評価する過程において、オリエンタリズムとは異なる思考様式と心象地理が生み出されることを狙ったこのプロジェクトと、The Japan Timesでの連載シリーズ'Why did you leave Japan?'は、現在行なっている研究課題Asian Women on the Move: Migration, Memory and Gender in Contemporary Performanceの礎となっている。

4. 研究成果

4年にわたる研究期間を統括するにあたり、以下に見るように雑誌論文14本、図書2本、英語論文発表4本、そして映像/演劇公演の翻訳や文化イベント企画、シンポジウム、キュレーション10本、合計30本を業績に挙げた。

〔雑誌論文〕（計14件）

- ①Mika Eglinton and Andrew Eglinton, 'Kyoto Experiment marks the end of an era' *The Japan Times*, Sep 24, 2019.
- ②Mika Eglinton and Andrew Eglinton, 'Diving into the world of political performance at Aichi Triennial' *The Japan Times*, Jul 30, 2019.
- ③エグリントンみか「バルカン半島の演劇を知る：ベオグラードの街角で見る旧ユーゴスラヴィアの悲劇」『シアターガイド』2018年11月、158-61頁。
- ④エグリントンみか「女×アジア×舞台芸術」Kyoto Experiment 2018年6月
https://kyoto-ex.jp/home/features/essay_series_02/
- ⑤'Why did you leave Japan? Theatre As a Cultural Identity: Aya Ogawa' *The Japan Times*, July 1 2018.
- ⑥Mika Eglinton and Andrew Eglinton, "Contemporary dance festival puts modern 'Genji' front and center", *The Japan Times*, Feb 20, 2018.
- ⑦Mika Eglinton, "Juliet Knapp: A life of theatrical management." *The Japan Times*. Feb 10, 2018. Mika Eglinton
- ⑧エグリントンみか、「コミュニタス・サリハラ：インドネシア現代芸術の最先端」『シアターガイド』2017年11月、154-56頁。
- ⑨エグリントンみか、「サン・アートに見る社会主義国家ベトナムにおける芸術的政治学」芸術公社シーン／アジア<http://scene-asia.com/ja/archives/831> 2017年7月
- ⑩Mika EGLINTON and Andrew EGLINTON, 'The ambiguous world of today's ventriloquists', *The Japan Times*, 27 Apr. 2017.
- ⑪Mika EGLINTON and Andrew Eglinton, 'T-C-T and TPAM set to offer a hot winter's feast of the arts', *The Japan Times*, Jan. 2017.
- ⑫Mika EGLINTON and Andrew Eglinton, 'Kyoto Experiment festival revels in breaking barriers', *The Japan Times*, 25 Oct. 2016.
- ⑬Mika EGLINTON and Andrew EGLINTON, 'Ishinha set for stunning final show', *The Japan Times*, 27 Sep. 2016.
- ⑭Mika EGLINTON, "'Thou art translated": Remapping Hideki Noda and Satoshi Miyagi's A Midsummer Night's Dream in Post-March 11 Japan', *Multicultural Shakespeare: Translation, Appropriation and Performance*, 2016) 51-72. 査読付き

〔図書〕（計2件）

- ①エグリントン みか翻訳、ジゼル・ヴィエンヌ構成・演出、デニス・クーパー作『腹話術師たち、口角泡を飛ばす』『舞台芸術』21(2018年)176-93
- ②エグリントン みか「迷宮劇場に蠢く憑代たち」、『舞台芸術』21(2018)194-96。

〔学会発表〕（計4件）

- ① Mika EGLINTON, 'Perspectives on Asian Women's Performing Arts Collective', Contemporary Japanese Theatre Workshop, Invited Lecture at Deutsches Institute fur Japanstudien, 27 July 2019.
- ② Andrew EGLINTON, 'Learning to linger': On Memory and Migration in Eiko Otake's Movement Arts', Contemporary Japanese Theatre Workshop, Invited Lecture at Deutsches Institute fur Japanstudien, 27 July 2019.
- ③ Mika EGLINTON, Reorienting the Orient: Identity, Migration and Performance, Round Table, Martin E. Segal Theatre Center, The Graduate Center, City University of New York, May 20 2019.
- ④ Mika EGLINTON, On migration and consciousness of in Naoko Tanaka's Uninternalized light' IFTR at University of Beograd, 5 August 2018. .

〔その他 映像/演劇公演の翻訳や文化イベント企画、シンポジウム、キュレーション(計10件)〕

- ① エグリントン みか ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ+エンクナップグループ 『幸福の追求』、あいちトリエンナーレ、名古屋市芸術創造センター(2019年8月3日-4日)字幕翻訳・操作。
- ② Mika Eglinton and Andrew Eglinton, Trans. Mikuni Yanaihara, *Tragic Heroine*, Asian Women Performing Arts Collectives, July, 2018, Hue, Vietnam.
- ③ 亜女会報告会 森下スタジオ BankART 2018年2月13-14日、運営・翻訳・通訳。
- ④ 亜女会クロニクル・プロジェクト TPAM 2018 BankART 2018年2月13-14日、運営・翻訳・通訳。
- ⑤ エグリントンみか企画、グエン・チン・ティ 『93 Years, 1383 Days』 下町芸術祭 (アジア女性舞台芸術会議・dance box 主催、2018年11月3日-25日 駒ヶ林一丁目南部長屋 (神戸市長田区駒ヶ林町1丁目7-11) <https://dbdancebox.org/blog/20171103/1503/>
- ⑥ エグリントンみか企画・司会 「Kimi Maeda Bend パフォーマンスとポスト・トーク：移民・戦争・記憶を巡って」 2017年11月1日 神戸市外国語大学学生会館
- ⑦ エグリントンみか企画・司会 シンポジウム「ナショナルアイデンティティと文化イベント」 KYOTO EXPERIMENT(田中奈緒子、キミ・マエダ、ロベルタ・リマ)2017年10月21日
- ⑧ エグリントンみか司会、「亜女会交流会」 早稲田スコットホールギャラリー (矢内原美邦、羊屋白玉、Ma Yan Ling、Michele Lim、Charlene Rajendran、June Tan、E-Jan Tan、Nguyen Trinh Thi、Tran Tuan、Monthatip Saksopha、Wasurachata Unaprom、Naomi Srikandi 2017年6月24日
- ⑨ エグリントンみか運営・通訳 「<プレ! 下町芸術大学> アジア女性舞台芸術会議 (亜女会) と探る、新長田におけるアジア、プロジェクトのかたち、未来」、2017年6月22日 神戸市外国語大学三木記念会館
- ⑩ エグリントンみか企画・司会 「芸術と社会の接点：「核」を巡る二つの映画を中心に」 ベトナム映像作家 グエン・チン・ティ 監督講演会 『[o Ha Kyu] (2012年) 「Letters from Panduranga」』 (2015年) 鑑賞、2017年6月21日 神戸市外国語大学三木記念会館

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 エグリントンみか	4. 巻 -
2. 論文標題 「バルカン半島の演劇を知る：ベオグラードの街角で見る旧ユーゴスラヴィアの悲劇」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『シアターガイド』	6. 最初と最後の頁 158-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 エグリントンみか	4. 巻 -
2. 論文標題 「女×アジア×舞台芸術」Kyoto Experiment	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 https://kyoto-ex.jp/home/features/essay_series_02/	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Mika Eglinton	4. 巻 -
2. 論文標題 Mika Eglinton, "Why did you leave Japan? Theatre As a Cultural Identity: Aya Ogawa"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Japan Times	6. 最初と最後の頁 12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Mika Eglinton	4. 巻 -
2. 論文標題 'Party talk a challenge after three decades in NY'	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Japan Times Alpha	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Andrew Eglinton and Mika Eglinton	4. 巻 -
2. 論文標題 Contemporary dance festival puts modern 'Genji' front and center”	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Japan Times, Feb 20, 2018.	6. 最初と最後の頁 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mika Eglinton	4. 巻 -
2. 論文標題 “ Juliet Knapp: A life of theatrical management ”	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Japan Times, Feb 10, 2018	6. 最初と最後の頁 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Andrew Eglinton and Mika Eglinton	4. 巻 -
2. 論文標題 “ Artist Naoko Tanaka uses light, space and objects to explore the 'unknowable inner outside world' ”	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Japan Times, Jan 13, 2018	6. 最初と最後の頁 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mika Eglinton	4. 巻 -
2. 論文標題 “ Diego Pallecchia: When heavy metal and noh collide ”	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Japan Times, Dec 9, 2017	6. 最初と最後の頁 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 エグリントンみか	4. 巻 2017年11月
2. 論文標題 「コミュニタス・サリハラ：インドネシア現代芸術の最先端」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『シアターガイド』	6. 最初と最後の頁 42-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 エグリントンみか	4. 巻 2017年11月
2. 論文標題 「インドネシア」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『アジア女性舞台芸術会議 報告書 2016年7月-2017年6月』	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Andrew Eglinton, Mika Eglinton	4. 巻 -
2. 論文標題 Theatre Commons Tokyo and TPAM set to offer a hot winter 's feast of the arts	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 The Japan Times	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Andrew Eglinton, Mika Eglinton	4. 巻 -
2. 論文標題 Kyoto Experiment festival revels in breaking barriers	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 The Japan Times	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Andrew Eglinton, Mika Eglinton	4. 巻 -
2. 論文標題 Ishinha set for stunning final show	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 The Japan Times	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 エグリントンみか	4. 巻 2016
2. 論文標題 "Thou art translated": Remapping Hideki Noda and Satoshi Miyagi's A Midsummer Night's Dream in Post-March 11 Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Multicultural Shakespeare: Translation, Appropriation and Performance. Lodz University Press.	6. 最初と最後の頁 51-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/mstap-2016-0016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 Mika Eglinton
2. 発表標題 "On migration and consciousness of in Naoko Tanaka's Uninternalized light"
3. 学会等名 IFTR (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mika Eglinton, Nguyen Trinh Thi
2. 発表標題 「Film viewing and lecture by Nguyen Trinh Thi (芸術と社会の接点: 「核」を巡る二つの映画を中心に)」
3. 学会等名 神戸市外国語大学公開講座 2017年 6月21日 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 エグリントンみか他
2. 発表標題 長田視察・公開交流会
3. 学会等名 亜女会交流会 2017年6月21 - 25日 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 エグリントンみか他
2. 発表標題 公開シンポジウム 「ナショナルアイデンティティと文化イベント」
3. 学会等名 KYOTO EXPERIMENT 2017年10 月 22 日 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 エグリントンみか
2. 発表標題 現地調査報告：インドネシア・シンガポール・カンボジア・ベトナム
3. 学会等名 亜女会報告会 2018年2月24日
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mika Egliton
2. 発表標題 Vietnam Travelogue: Saigon-Hanoi
3. 学会等名 The 2nd Asian Women Performing Arts Collective Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Mika Eglinton
2. 発表標題 Where is Asian now?
3. 学会等名 Scene/Asia Annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 エグリントン みか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 『舞台芸術』21	5. 総ページ数 194-96
3. 書名 「迷宮劇場に蠢く憑代たち」	

1. 著者名 ジゼル・ヴィエンヌ構成・演出、デニス・クーバー作、エグリントン みか訳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 『舞台芸術』21	5. 総ページ数 176-93
3. 書名 『腹話術師たち、口角泡を飛ばす』	

1. 著者名 Mikuni Yanaihara, English Trans by Mika Eglinton, Andrew Eglinton	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Asian Women Theatre Conference, Hue, VietnamSelf-publishing	5. 総ページ数 3-40
3. 書名 Tragic Heroine	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

